

## AAC 受賞 OB インタビュー

AAC 応募者や受賞者の方たちの中にも作家活動、芸術教育の分野、もしくは海外で作家活動している方など、頑張って活躍されている方々が沢山います。

今回は、AAC 第1回の受賞者、また第20回では審査員も務めていただいた、チェコ共和国（以下チェコ）首都プラハ在住、彫刻家の大成哲さん(<https://www.tetsohnari.com/>)にインタビュー。

昨年末にチェコの国立大学で博士号を取得した話なども交えて博士課程の実態についてもお話を頂きました。



大成哲さん（持っているのは博士論文）

### ■まず博士課程とは何か？

一度は聞いたことがあるであろう「博士号」、博士課程とはそもそも何なのでしょうか。

「博士号とは大学の学術において最高学位とされ、大学の学部での学士号、大学院の博士課程前期での修士号、最後に大学院の博士課程後期として取得できる学位が博士号になります。

ヨーロッパなど海外では、学士を Bachelor/B.A.、修士を Master/M.A. もしくは Diploma、博士 (Doctor/Ph.D.)と言います。日本と海外では、教育システムが異なることもあるので、留学に興味がある方はその国、大学のシステムをしっかりと調べておきましょう。」

※大成さんが作家活動と同時に運営しているブログサイトにも似た記事が載っています

ヨーロッパの学位に関しての記事はこちら→ <https://artsurviveblog.com/lifestyle/466>

## ■アート博士？

「修士には、芸術学修士(Master of Fine Arts) があるのですが、博士には、こういった芸術・アート分野における博士の学位といったものではなく、哲学博士 Ph.D. (Doctor of Philosophy) の学位が与えられます。また、博士は、修士に比べて、研究が専門性と社会性を帯びている必要があり、大学にとどまることで意味がある研究や活動が求められます。」

## ■大成哲さんの博士課程の道のりについて聞きました。

「2013年にアカデミックの本場であるヨーロッパで、博士課程での研究に興味があり、チェコのヤン・エヴァンゲリスト・ブルキニエ大学(UJEP)芸術デザイン学部ビジュアルコミュニケーション学科 (<https://fud.ujep.cz/en/>) の後期博士課程を受験し、実は補欠ながら合格することができました。」



ヤン・エヴァンゲリスト・ブルキニエ大学(UJEP)のキャンパス（チェコ）

「全ての必要単位、その他のワークショップや講義などを数年の間で行いました。卒業論文では130ページ執筆したのですが、これは随分大変でした。次に、卒業必要事項の中に、自分の力で信用がある場での個展（営利目的のギャラリーなどはダメ）をすることが含まれており、自分で営業をしてチャンスを掴むことも大変でした。結果、2016年にチェコの美術館 Egon Schiele Art Centrum ([http://www.esac.cz/cz/egon\\_schiele\\_art\\_centrum/](http://www.esac.cz/cz/egon_schiele_art_centrum/)) での個展の機会を頂き、2020年になんとか無事個展を開催することが出来ました。基本的には博士課程は3-4年で卒業するのですが、私は大学院の在籍満了の8年目に、念願だった博士号を取得することができました。」

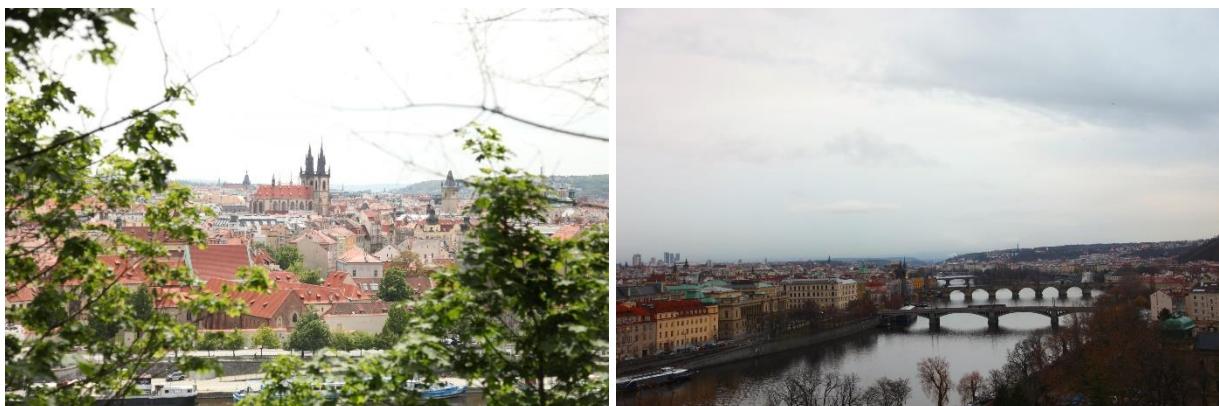


2020年に Egon Schiele Art Centrum で開催された個展の様子（チェコ）

## ■海外大学での留学を成功させるポイントはありますか？

「私は学生という身分を最大限に活かして制作や研究に集中しました。また、作家活動におけるスponサー探しを博士の研究と併用したり、アーティストビザではなく学生ビザを有用することによるメリットなど、臨機応変に自分が持つ環境の中で、できることをしていきました。」

「外国で生活していく上で大変なことは、ビザ、お金、言語、文化の違いなどが挙げられますが、その中でも、実はビザが一番大変です。というのも、留学や生計が上手くいっても、ビザが切れてしまったらそこに滞在することができなくなります。ある意味いきなりその国でクビになるようなものです。海外ですから、わからないことや理不尽なことが沢山起きるので、ビザだけではなく提出書類や契約する内容は、日本にいる時よりシビアに確認しています。」



大成さんが生活しているプラハの街並み（チェコ）

## ■博士号について教えてください。

「自分が現地の人たちと肩を並べて博士課程に入学できたことも正直びっくりしましたので、博士号の最終試験にチャレンジすることなど、もちろん自信がなく、この8年間、自分が学生であることを誰にも伝えていませんでした。現在も中身と肩書きが釣り合っているとは思っていません。ただ、自分が子どもの頃から図工が好きだという延長で美大に行き、今はプロという肩書きで制作や、考える仕事をしています。その過程の一つとして、客観的な社会的評価である博士号を取得できたことは、少なからず自分にとって大きな意味を成しています。今後、自身の研究や仕事を継続することで、社会に還元していくようさらに頑張っていきたいと思います。」

## ■最後に、AACに関わってくれている芸術家を志す方達にメッセージをお願いします。

「やはり海外へ行くこと、留学することを強くお勧めします。もちろん、どこで、何をするか、誰といふか、どのくらいの期間行くか、ということはもちろん重要です。しかし自分の力で外国に行ったこと、そこでの自身の緊張、刺激、解放などそれ自体が言葉にできないほどの重要な何かになっていくのだと思っています。」

大成哲さん、インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。また改めて博士号取得おめでとうございます。ますますのご活躍を祈念しております。



大成 哲 Tets Ohnari

彫刻家（第1回 AAC 優秀賞）

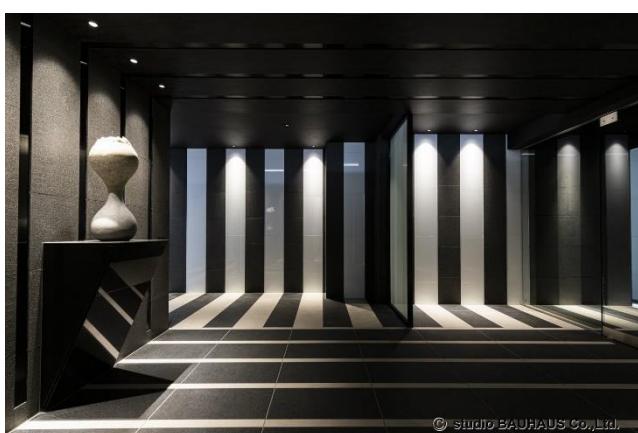
1980年東京生まれ。日本大学芸術学部在学時に AAC 第一回目に応募し受賞。

東京藝術大学大学院修士課程修了後、POLA 美術振興財団、

文化庁の海外研修制度などを受け、2010年チェコ共和国のプラハへ研修。

以後、現在も中欧と日本を中心に展示、滞在制作など彫刻制作活動を続けている。

2020年 Egon Schiele Art Centrum（チェコ）、TEZUKAYAMA Gallery（大阪）などで個展開催。



© studio BAUHAUS Co.,Ltd.

Circle of life /大理石、FRP/ 2020



tear/ガラス/2016